

『たっち』は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和5年2月10日です。

たっち

立川市教育だより

●今号の主な内容

- 2面 … 今こそ平和について学ぶ機会を / 立川第七中学校体育館の復旧
- 3面 … 「特別支援教育講演会」開催 / アール・ブリュット立川2022
- 4面 … 立川市の歴史と文化財 / 学校給食共同調理場公式Instagram開設

編集・発行 / 立川市教育委員会
 〒190-8666 立川市泉町1156-9
 ☎042(523)2111(市役所代表)
 立川市ホームページ
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>



立川市・大町市姉妹都市中学生サミット 3年ぶりの対面交流！

7月16日(土)・17日(日)、長野県大町市の中学生18人を招き、3年ぶりに対面での「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」を開催しました。平成3年の大町市との姉妹都市の締結から、平成27年以降は生徒会を中心とした相互訪問を行い、体験活動の中から両市の魅力や文化の違いについて両市の生徒が話し合い、発表を行っています。

問指導課・内線2497



立川市キャラクターくるりん / 大町市キャラクターおおまびよん



SDGs^{※1}を学習し 英語で発表しよう

両市の生徒により構成されたグループごとに、SDGsの目標や具体的な取組についての理解を深め、両市の課題や自分たちにできることを話し合いました。その内容はプレゼンテーションソフトを用いて英語で発表しました。

オールイングリッシュでの意見交換

TGG^{※2}の外国人講師の指導により、英語での会話や作文を行いました。苦戦しながらも発表資料の作成を行い、自分たちの考えを表現することができました。

地域や社会の担い手として

両市の生徒が、体験活動等を通してコミュニケーションを重ね、交流を深めた2日間でした。本サミットを通して学び、考えたことを、各学校や地域のさまざまな活動で生かし、広めていくことを期待しています。今後も夢や誇りを持ち、将来にわたってよりよい地域や社会の担い手となる児童・生徒の育成を行っていきます。



※1：国連が掲げる地球規模の課題である「持続可能な開発目標」のことで、17の目標がある。

※2：江東区にある体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の略称。令和5年1月には同様の体験学習ができる「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」がJR立川駅北口のGREEN SPRINGS内にオープン。



今こそ平和について学ぶ機会を



「平和都市宣言30周年パネル巡回展」 などを開催しました

市が「平和都市宣言」を行ったのは、平成4年3月です。今年は30周年の節目の年となるため、令和4年7月2日(土)から現在改修中の錦学習館を除く地域学習館や立川市役所多目的プラザにおいて、「平和都市宣言30周年パネル巡回展」と「立川市民の戦争」などの講演会を開催しました。

この巡回展示と講演会の開催にあたっては、「立川市地域学習館運営協議会」や「たちかわ市民交流大学市民推進委員会」のご協力のもと進めてまいりました。

パネル巡回展では、立川市内の空襲などを中心に各地域に関係の深い写真や資料を集め展示を行いました。また、講演会では戦争を体験した方に戦争の悲惨さや当時の生活の様子を語っていただくなど、あらためて平和の尊さについて考える機会となりました。



「立川市中学生平和学習派遣事業」で 各校の代表の中学生を広島市へ派遣しました

平成30年から「立川市中学生平和学習派遣事業」として各中学校の代表生徒9人を広島市へ派遣しています。この平和学習の目的は、被爆地である広島市のさまざまな施設や街並みを、実際に見て、聴いて、感じたことを通じて平和について考え、そのことを在籍の中学校の生徒や市民の方に広く発信することにより平和学習の充実を図るものです。



令和2年と令和3年は、新型コロナウイルス感染症の影響により本事業を中止しましたが、令和4年は8月16日(火)、17日(水)に9人の生徒が広島市を訪れました。

1日目は、ガイドの方のご案内で原爆ドームをはじめとした平和記念公園内の施設を見学した後、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を展示した平和記念資料館を見学しました。その後、被爆された方から原爆投下時の状況等の貴重な体験を伺いました。

また、2日目には、被爆建物として校舎の一部が保存されている袋町小学校平和資料館を見学しました。

参加した生徒からは、「二度と戦争を起こしてはならないと感じました」、「核兵器について改めて考えるようになりました」、「平和の大切さを語り継いでいくことはとても大事なことだと感じました」などの感想が寄せられました。

参加した中学生による発表については、令和5年2月5日(日)に開催する立川教育フォーラムの中で行うことを予定しています。

☎ 柴崎学習館 ☎ (524) 2773

立川第七中学校体育館の復旧について

6月30日(木)未明に発生した立川第七中学校体育館の火災につきましては、生徒、保護者および地域の皆様に多大なご迷惑やご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

復旧方針について

立川第七中学校体育館の火災については、火元の2階東側倉庫部分が焼けたほか、燃え広がった火が天井まで達し、熱によって鉄骨部分に変形するなど、体育館の躯体等の強度にも影響を及ぼしました。

市では早期の復旧を図り、教育活動および地域活動等への影響を最小限とするため、全庁的なプロジェクトである「第七中学校体育館復旧対策プロジェクト会議」を立ち上げ、建築技術の専門家からの意見を参考に検討を行いました。

建築技術の専門家の意見からは、現体育館を改修する場合は躯体等の詳細調査の実施が必要となり、また補強・交換が技術的に難易度の高い施工のため、建替えよりも工期が長くかかるほか、工事制約が多いことや鉄骨鉄筋コンクリート造の柱の改修および屋根部の全面改修等を考慮すると、コスト面は建替えと同規模またはそれ以上となる可能性があることが判明しました。

このことから、プロジェクト会議において次のとおり復旧方針を決定しました。

■ 復旧方針

現体育館の速やかな解体・除却を実施し、建替えによる新体育館を築造します。

■ 復旧スケジュール(予定)

今後、下図のスケジュール(予定)にて、体育

館の復旧を進めていきます。

出火原因・再発防止策

立川第七中学校体育館の出火原因については、立川消防署より連絡があり、体育館2階東側倉庫の天井裏において、何らかの原因により電気配線が短絡(ショート)し、出火したものと推定されるとの説明がありました。

そのため、小・中学校における再発防止策として、漏電の有無を調査する絶縁抵抗測定の実施を実施しました。

火災発生を未然に防止する対策に努めていきます。

生徒への支援

火災の影響で体育館が使用できないため、アリーナ立川立飛の運営を行っている立川ダイス様からバスケットボール部の練習場所の提供や、男子プロバスケットボールBリーグアルバルク東京様および立川ダイス様からバスケットボールを寄贈していただきました。

立川第七中学校の生徒をご支援いただき、誠にありがとうございます。

☎ 教育総務課・内線2469

令和4年度				令和5年度				令和6年度			
4月 ～ 6月	7月 ～ 9月	10月 ～ 12月	1月 ～ 3月	4月 ～ 6月	7月 ～ 9月	10月 ～ 12月	1月 ～ 3月	4月 ～ 6月	7月 ～ 9月	10月 ～ 12月	1月 ～ 3月
設計(新築/解体)											
備品廃棄・運搬等/解体工事											
設計/工事				仮設体育館リース							
				新築工事/備品購入・運搬等				供用開始 (令和6年度2学期)			

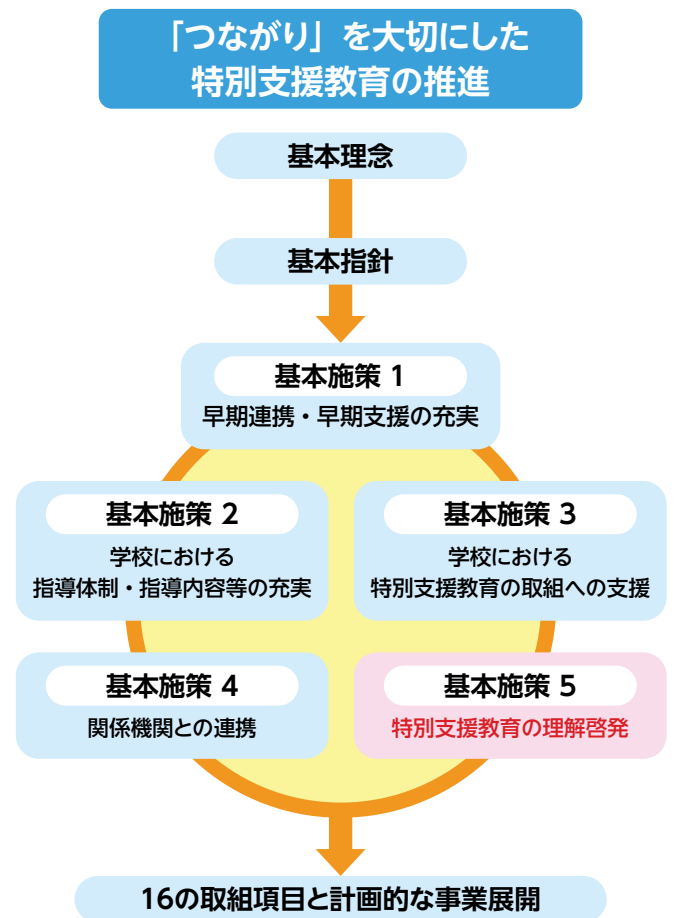
「特別支援教育講演会」開催のお知らせ

市では、第3次特別支援教育実施計画に基づき、「1 早期連携・早期支援の充実」、「2 学校における指導体制・指導内容等の充実」、「3 学校における特別支援教育の取組への支援」、「4 関係機関との連携」、「5 特別支援教育の理解啓発」の5つの基本施策のもとで事業を展開しています。

このうち、「5 特別支援教育の理解啓発」では、発達障害教育を含む特別支援教育の推進と理解啓発のため、保護者、関係機関、市民等を対象に特別支援教育をテーマとする講演会を開催し、障害に対する正しい知識の普及や理解の促進に取り組んでおり、今年度は下記のとおり開催します。



立川市第3次特別支援教育実施計画体系図



テーマ 「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくるために～障害者の社会参加にむけたステップ～」

※障害のある子どもの将来をイメージするための講演です。
※就労支援につなげるために、今やっておくべきことが見えてきます。

日時 11月21日(月)午前10時～11時30分

会場 女性総合センターホール(アイムホール)

講師 西村 周治氏(社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会・世田谷区立障害者就労支援センターすきっぷ施設長)

定員 100人(申込順)

申込 電話、または小・中学校等で配布する参加申込書(市ホームページからダウンロード可)をファクスで教育支援課就学相談係☎(527)6171、FAX(528)6875へ

教育委員の活動を紹介します

教育委員の令和4年5月から9月までの活動は下表の通りです。

活動実績(令和4年5月～9月)

5月17日(火)	第9回教育委員会定例会
5月24日(火)	学校給食共同調理場視察 第10回教育委員会定例会
6月9日(木)	第11回教育委員会定例会 第1回総合教育会議
6月15日(水)	学校訪問(第一小学校)
6月23日(木)	学校訪問(第六小学校) 第12回教育委員会定例会
7月14日(木)	学校訪問(西砂小学校) 第13回教育委員会定例会
7月28日(木)	第14回教育委員会定例会 立川市立小学校PTA連合会と教育委員の懇談会
8月1日(月)	昭島市「アキシマエンス」視察
8月4日(木)	第15回教育委員会定例会
8月25日(木)	第16回教育委員会定例会
9月5日(月)	第17回教育委員会定例会
9月21日(水)	第18回教育委員会定例会



学校訪問(第六小学校)の様子



昭島市「アキシマエンス」視察の様子

☎教育総務課庶務係・内線2465

アール・ブリュット立川 2022

～高松からの風～

☎高松学習館☎(527)0014

アール・ブリュット立川実行委員会との共催で、「アール・ブリュット立川2022～高松からの風～」を9月6日(火)から9月19日(月・祝)まで開催しました。

アール・ブリュットとは正規の美術教育を受けていない人々が、伝統や社会の潮流に流されることなく独自の方法により制作した作品を指します。

著名な作家だけでなく、地域の福祉作業所の方々の作品やこれまでに作成したポスターなどを、高松学習館のロビーや廊下階段などのスペースを使い多数展示し、多くの方に鑑

賞いただきました。

併設の高松図書館では、期間中アール・ブリュット関連本のミニ展示コーナーを設置するとともに、リサイクル本の配布も行いました。

また、9月9日(金)には障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会制作の映画「バリアフルライフ」を上映したほか、9月11日(日)にワークショップ「オリジナルコースターづくり」を開催し、参加した皆さんが思い思いにデザインしたコースターをつくりました。



高松学習館のロビーでの展示の様子



ワークショップの様子

幸学習館

かわせみカフェ

12月10日(土)

午前10時～午後3時

東京学芸大学の学生が企画し、幸学習館運営協議会が運営する「かわせみカフェ」を、「世代間交流」を目的に開催します。平和をテーマに絵本の読み聞かせや、パネル展示を行います。工作コーナーではまっぼっくりツリーやポップアップカードを作ります。昔遊びコーナーではけん玉やコマで遊びます。お気軽にお立ち寄りください。直接会場へ。

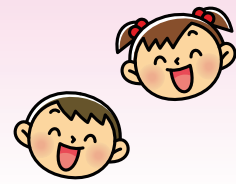
※新型コロナウイルスの感染状況に応じて、開催時間や内容が変更になることがあります。



昨年度の「かわせみカフェ」の様子

☎幸学習館 ☎(534) 3076

砂川子ども観劇会 人形劇「赤ずきんちゃん」



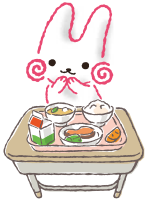
毎年恒例となった砂川子ども観劇会。今年には人形劇「赤ずきんちゃん」を公演します。お母さんに頼まれおつかいに行く、赤ずきんちゃんのかわいい冒険物語です。みなさん奮ってご参加ください。

出演：人形劇団オフィスやまいも(対)3歳～小学校6年生(小学校3年生以下は保護者同伴) 時12月10日(土)午後2時～3時 場砂川学習館(定)40人(申込順) 申11月11日(金)から砂川学習館 ☎(535) 5959へ

立川市学校給食共同調理場 公式Instagram始めました

市では、令和5年2学期からの新学校給食共同調理場の稼働により、全ての市立小・中学校に2つの共同調理場から温かくておいしい学校給食を届けることができるようになります。

学校給食共同調理場での毎日の給食の献立や特徴を写真などで紹介する公式Instagramを開設しました。ぜひご覧いただきフォローをお願いします！



オムライス



ハンバーグ



焼きそば



節分給食



☎学校給食課 ☎(529) 3511

中嶋家文書「多摩川流域村々絵図」は、源流から河口までの山々や道、用水路、堤防、水田や村名を描いた絵図です。絵図は彩色され、大きさは幅78cm、長さは27m以上もあります。この絵図は北が下、南が上で描かれ、川、用水路は水色、道は赤色、堤防は黒色、水田は黄色、荒地は灰色で書き込まれています。太

立川市と日野市の境を流れる多摩川は、山梨県甲州市笠取山の中腹を源流とし、東京都大田区羽田で東京湾に注いでいる、全長約138kmの一級河川です。立川市域では江戸時代以降、羽村堰で取水している玉川上水の分水(砂川分水、柴崎分水など)や九ヶ村用水(昭和用水・立川用水)を通じて、水の恵みを受けてきました。



多摩川流域村々絵図(歴史民俗資料館所蔵)の一部(立川市周辺)

立川市の歴史と文化財

49

多摩川流域村々絵図

い赤線は甲州街道で、多摩川を渡るところは日野の渡しで、現在の立日橋の東側付近になります。立川側(下)の堤防は断続的になっているのが読み取れます。これは霞堤と呼ばれる、洪水の時には、計画的に氾濫させて、下流を守る治水対策を取っていたことがわかります。

中嶋家は鈴木家とともに江戸時代柴崎村の年番名主を務めていました。この絵図は明治4(1871)年ごろに多摩川の治水を目的につくられたと考えられます。中嶋家当主の次郎兵衛(兵衛)は、葦山県(柴崎村は当時葦山県所屬)の堤防締役であり、そのため中嶋家に遺っていたと考えられます。立川市とは直接のかかわりはありませんが、中嶋家には多摩川の支流である秋川の絵図も遺されていました。同じような多摩川の絵図は、世田谷区の大場代官屋敷保存会文書や国立市の西野家文書などでも確認されています。当時河川を管轄していた民部省らによって絵図が作られ、その写しが多摩川流域の村々に遺されていたと考えられます。

市史編さん室が刊行している『新編立川市史資料編 地図・絵図』には多摩川だけではなく、秋川の流域絵図も掲載されています。

現在歴史民俗資料館で開催中の企画展「多摩川と立川」利水と災害(12月11日(日)まで。毎週月曜日休館)において、源流から河口部まで展示します(立川市周辺のみ実物他はパネル展示)。ご興味のある方はぜひご来館ください。

☎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター)文化財係 ☎(525) 0860